

2. 高齢者施設での被害状況（岩手県・宮城県・福島県）

東日本大震災では多くの高齢者施設が津波で被災した。3県の高齢者施設では少なくとも 52 箇所が被災し、入所者・利用者 485 名、職員 173 名（含施設外）の計 658 名が犠牲（死亡・行方不明）となっている。（厚生労働省保健局発表：2012 年 6 月 13 日）

避難所に逃れた方の関連死や原発避難に関連死などでさらに多くの高齢者がなくなっているが、ここでは、津波被災による直接死に絞ってまとめた。津波による犠牲者の出た主な施設は次の通り。

県	市町村	施設種類	施設名	標高	海岸線迄	建物	入所者	職員
岩手県	山田町	介護老人保健施設	シーサイドかる	5m	約 100m	3階建	74 名	14 名
	大船渡市	特別養護老人ホーム	さんりくの園	15m	約 1km	2階建	56 名	1 名
宮城県	気仙沼市	介護老人保健施設	リバーサイド春圃	1m	約 400m	2階建	59 名	0 名
	南三陸町	特別養護老人ホーム	慈恵園	15m	約 1.2km	1階建	48 名	1 名
	東松島市	特別養護老人ホーム	不老園	1m	約 2km	1階建	56 名	0 名
	仙台市	特別養護老人ホーム	潮音荘	2m	約 800m	2階建	6 名	2 名
	名取市	特別養護老人ホーム	うらやす	1m	約 1.3km	1階建	34 名	2 名
	山元町	養護老人ホーム	梅香園	1m	約 300m	1階建	46 名	20 名
	山元町	ケアハウス	福寿の園	1m	約 300m	1階建	16 名	3 名
福島県	南相馬市	介護老人保健施設	ヨッシーランド	6m	約 2 km	2階建	36 名	1 名

【注】標高は地理院地図（電子国土Web）より、海岸までの距離は Google Earth による。

【施設毎の状況】

- 1) 山田町の老健「シーサイドかる」は、山田町の津波ハザードマップ(8m)からぎりぎりの範囲外であった。利用者 96 人対し 48 人の職員がいたが全員を高台に移すことができず入居者 74 名と 14 名の職員が犠牲になった。
- 2) 大船渡市の特養「さんりくの園」は越喜来湾から約 1 kmあって標高も約 15mであった。津波による死者・行方不明者 54 人は、大船渡市全体(462 人)の約 1割以上を占める。入所者の自力避難が困難であったこと、津波の情報を入手できなかったこと、避難の初動が遅れたことなどが被害の拡大につながったといわれている。（河北新聞 2011 年 5 月 22 日）
- 3) 気仙沼市の老健「リバーサイド春圃」では施設内で犠牲になった入居者は 47 名。避難所に避難できた入居者も多かったが低体温症等で翌日避難所において 12 名が死亡している。
- 4) 南三陸町の特養「慈恵園」(標高 15m)は、棟続きの町社会福祉協議会が津波など災害時の指定避難場所でもあった。南隣のさらに高い場所にある志津川高(標高 35m)に高齢者を避難させようとしているさなか、大津波がホームに襲い掛かった。入所者とショートステイ利用者計67

人のうち46人が死亡、2人が行方不明になり、職員も1人が亡くなった。慈恵園のあった場所には数年前まで志津川中学校(高台に移設しており津波被害なし)があった。

- 5) 東松島市の特養「不老園」は松島湾の海沿い(約 100m)に建っていたが、津波は東方約 2 km離れた石巻湾沿岸から襲ってきた。施設内部と避難途中に入居者 43 名が津波に巻き込まれて犠牲となっている。避難所である野蒜小(約 1.5km)に避難できた方もいたが、体育館で津波に巻き込まれて 13 名が犠牲となっている。
- 6) 仙台市若林区の特養「潮音荘」では、10m の津波が来るというので、近くの小学校に車でピストン輸送した。最後に車で出て行った 6 人とデイサービスの所長が津波に巻き込まれ流された。津波到来のため施設に残った 40 人を 2 階に上げて津波から助かった。海岸から約 800mで標高 2mにも関わらず 2 階に避難して助かったことは幸運であった。
- 7) 名取市閑上の特養「うらやす」(平屋)では、津波避難は近くの鉄筋 3 階建て「ケアハウス」に移送することにしており当日も車 7 台で 45 人をケアハウスに移し、残る 118 人も移ろうとしていたその時、地元の警察官が 1. 5km 離れた閑上(ゆりあげ)中学校に避難の指示があったため、避難先を変更した。結果的には閑上中学校へ避難した方が多く犠牲となり、ケアハウスに避難した方はほとんど助かった。
- 8) 山元町の養護老人ホーム「梅香園」と隣接するケアハウス「福寿の園」では、車 9 台で内陸部に移送している間に、それぞれの車が津波に巻き込まれて、「梅香園」では入居者 46 名、職員 20 名が、「福寿の園」では利用者 16 名、職員 3 名が犠牲となった。
- 9) 南相馬市の老健「ヨッシーランド」の敷地内には介護老人保健施設、訪問看護、在宅介護支援、認知症高齢者グループホームの各施設があった。当時、入所者やデイサービスの利用者は合わせて約 140 人おり、職員は 60 人ほどが勤務していた。市が作成したハザードマップは、施設にまで津波が押し寄せることを想定していなかったが、津波に襲われて、職員 1 名を含む 37 名が犠牲となった。

【考察】

高齢者施設の犠牲者のほとんどが施設内部と避難途中に津波に巻き込まれている。また、避難所まで逃げたがそこで亡くなったケースもある。付き添いの職員と一緒に犠牲となっていることも見過ごせない。これまで大きな津波被害の記録がない地区(例:山元町)においても大きな被害が発生した。施設立地場所が海に近く標高も低い施設において多くの犠牲者がでたことから、高齢者施設は津波に被災しない安全な場所に設置することしか人命を守る方法はないことを再認識させられた。また、行政作成の津波ハザードマップ領域外にあった施設が多いことも教訓としなければならない。高齢者施設事業者には施設設置場所について十分な配慮を切望する。

【参考】対象とした高齢者施設は次の通り

- ① 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム、通称:特養)、②介護老人保健施設(通称:老健)、③療養型介護老人保健施設、④養護老人ホーム、⑤軽費老人ホーム(ケアハウスもこの一種)、⑥認知症高齢者グループホーム、⑦有料老人ホーム、⑧老人デイサービスセンター、⑨老人短期入所施設(通称:ショートステイ)